

## 第86番札所 補陀洛山 志度寺

— 「海女の玉取り」伝説が縁起として伝わる、札所屈指の古刹 —

本尊：十一面観世音菩薩  
(7/16のみご開帳)

所在地：香川県さぬき市志度1102

TEL：087-894-0086

宿坊：なし



香川県の東部、おだやかな瀬戸内海の志度湾に面し、ほのかに潮の香りが漂う門前町に建つ志度寺。開創は飛鳥時代の625年とされる四国霊場きっての古刹です。

日本でも有数の名門と讃えられる三棟造りの仁王門をくぐると、木々が伸びやかに生い茂る一万坪もの境内が広がり、悠々とした雰囲気。本堂は仁王門と共に、江戸時代に高松藩主・松平頼重により寄進されたもので、国の重要文化財に指定されています。

ここ志度寺は謡曲の海士の舞台としても知られています。藤原不比等と契りを結んだ海女が、不比等とその子、房前のために龍神に奪われた宝珠を命と引き換えに取り戻したという物語。縁起によると、681年に不比等は、この海女の妻の墓を建てて「死渡道場」と名付けたとあります。書院の正面には、この伝説を7個の石と白砂で表現した重森三玲作の「無染庭」もあり、物語の世界に思いを馳せながら、ゆっくりと庭を鑑賞できます。

また、かつて「死渡」と呼ばれたように、志度寺は極楽浄土にいちばん近い寺として、厚く信仰されていた歴史をもちます。江戸時代に建てられた閻魔堂には、冠に観音像を11体のせた、めずらしい姿の閻魔様がまつられていて、十一面観世音菩薩の化身ともいわれています。信心すれば、すべてを許し、極楽浄土へ導いてくれるといわれているそうです。

